

第36期 (2016年6月期)

第3四半期連結業績説明資料

2016年 5月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.co.jp/>

e-mail : ir@donki.co.jp

本領発揮したドンキホーテHD！！

15年7月～16年3月期

ドンキホーテHDが9日に発表した2015年7月～16年3月期の連結決算は、消費者心理の変化を巧みにとらえた「ディスカウント力」を大いに発揮した内容となった。

国内景気は減速感が漂うが、同社は逆張りの経営を貫いた。地方都市の居抜き物件を中心に積極的な店舗開発を進め、人員・販売体制も強化した。営業面では生活必需品に係るボリューム増と価格訴求を徹底した。インバウンド消費の下支えも加わった売上高は前期比11%増の5,695億円、営業利益は3%増の349億円、経常利益は1%増の352億円、純利益は1%減の197億円になった。

ファミリー向けのMEGA店が好調だ。当期の出店は16店を予定しており、そのほとんどは他企業のリストラ物件を活用しており、低費用かつ短期間でオープンすることが可能だ。

総合型小売業として異彩を放っている同店は、消費購買力が高い大都市近郊よりも地方都市における成長力や収益力が勝っている。価格志向が加速し、生活必需品を中心に競争が激化している消費環境下において、その存在感はますます大きくなっており、今後のシェア拡大に対する期待が膨らむ。



2016年6月期3Q 決算概況

- ✓ 決算業績概況
- ✓ 事業別業績概況
- ✓ 主な資産、負債、純資産の状況
- ✓ セグメント情報
- ✓ キャッシュフロー、設備投資の状況
- ✓ 決算レビュー

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓ 月次販売高の状況
- ✓ 出店状況&ハイライト情報
- ✓ インバウンド商戦
- ✓ MEGA躍進物語
- ✓ 老舗百貨店再生物語
- ✓ 上場子会社の状況

2016年6月期 通期業績予想

- ・本資料における記載金額は、単位未滿を四捨五入して表示しております。
- ・本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「ドンキホーテHD」または「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、アクリーティブ(8423)は「ACR」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」と表示している箇所があります。
- ・当期期首より「企業結合に関する会計基準」を適用しておりますが、本資料に記載している勘定科目等は、意を損ねることがない程度に簡略した表記を使用している箇所があります。

1. 3Q累計連結業績概況

潮目が変わりギアを入れ替えて生活必需品需要の主導権を握り、リピート増でインバウンド消費も拡大！！

- ▶ 穏やかなインフレ進行が徐々に失速。さらに天候不順も追い打ちをかけた消費環境下で、家計エンゲル係数の上昇抑制をサポートする「ディスカウント力」を強化推進。一方で、非食品部門を中心とした付加価値型商品のラインナップを充実させた商品ポートフォリオを提案し、支持率はますます上昇。
- ▶ インバウンドビジネスは新たな局面に突入。為替レートの変動と一巡した消費動向の変化などを主要因とした客単価の推移については、客数増加率が圧倒して増収が続く。またSNS人気を活かしながら、買い物ディスティネーションとしての「リアルドン・キホーテ」の普遍的な価値向上にまい進。併せて中国依存度を引き下げる施策を講じて一定の効果出現。
- ▶ 店舗開発はすこぶる順調！！大都市圏のみならず郊外エリアや地方都市、1,000㎡以下の小型サイズから10,000㎡超の大型サイズまで、バリエーションも豊富に展開。さらに居抜き物件の獲得容易性が向上して新規出店が加速。実験店を含めた新業態開発も進む。
- ▶ 当3Q（16年1月～3月）は、低迷する消費マインドが耐久消費財や嗜好品消費などを低空飛行で推移させ、さらに気温乱高下などの天候不順は季節商品販売に悪影響を及ぼす。厳しい環境ながらも商品展開及び価格提案に機動性を発揮させて顧客満足指数を高めたことから、新店加速や人員体制強化策に伴う販管費増を見込んだ事前予想を上回る実績で着地！
- ▶ これらのことから、3Q累計連結業績は通期業績予想に対する進捗率も順調に推移し、売上高5,695億円（前期比11.7%増：進捗率75.9%）、営業利益349億円（同3.7%増：同85.2%）、経常利益352億円（同1.3%増：同84.9%）と増収増益を達成。親会社に帰属する当期純利益は197億円（1.7%減）、同進捗率は84.3%といずれも予想を上回る推移！！

2. 通期業績見通し

新規出店も加速して「27期連続増収営業増益」を見込む！

- ▶ 通期業績の見通しは、当初予想を上方修正した前回予想（2016年2月5日公表）通り、売上高7,500億円（前期比9.7%増）、営業利益410億円（同4.9%増）、経常利益415億円（同3.3%増）及び親会社に帰属する当期純利益234億円（同1.1%増）で、27期連続増収営業増益達成を見込む。

3Q累計業績サマリー

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2015年7月1日～2016年3月31日】

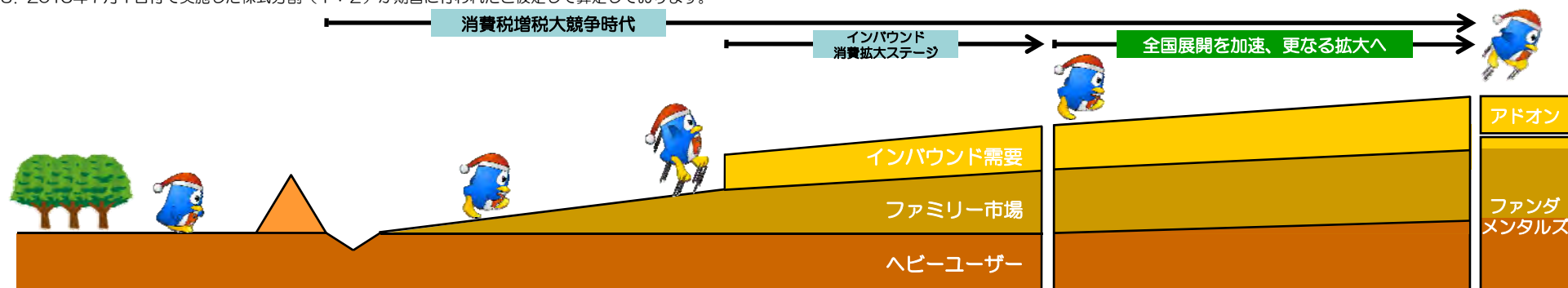
(単位：百万円)

| 連結実績 | 当3Q累計実績 | | | | 前3Q累計実績 | | 通期業績予想 ^{※1} | |
|-------|---------|--------|--------|-------------------|------------|--------|----------------------|--------|
| | 金額 | 百分比 | 前期比 | 進捗率 ^{※2} | 金額 | 百分比 | 金額 | 百分比 |
| 売上高 | 569,547 | 100.0% | 111.7% | 75.9% | 509,920 | 100.0% | 750,000 | 100.0% |
| 売上総利益 | 152,134 | 26.7% | 110.6% | 76.1% | 137,531 | 27.0% | 200,000 | 26.7% |
| 販管費 | 117,197 | 20.6% | 112.9% | 73.7% | 103,844 | 20.4% | 159,000 | 21.2% |
| 営業利益 | 34,937 | 6.1% | 103.7% | 85.2% | 33,687 | 6.6% | 41,000 | 5.5% |
| 経常利益 | 35,249 | 6.2% | 101.3% | 84.9% | 34,802 | 6.8% | 41,500 | 5.5% |
| 当期純利益 | 19,732 | 3.5% | 98.3% | 84.3% | 20,083 | 3.9% | 23,400 | 3.1% |
| 1株利益 | 124.83円 | | 97.7% | 84.3% | ※3 127.74円 | | 148.00円 | |

※1. 通期業績予想は、2016年2月5日に当初予想（2015年8月17日公表：売上高7,300億円、営業利益398億円、経常利益408億円、純利益233億円）を上方修正したものであります。

※2. 進捗率は通期業績予想に対する進行割合を表しております。

※3. 2015年7月1日付で実施した株式分割（1：2）が期首に行われたと仮定して算定しております。



3Q累計連結業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶ 連結売上高：5,695億円（前期比11.7%増）

消費マインドや消費支出が低迷しているだけでなく、天候不順にも悩まされた中で、「バラエティさを伴ったディスカウント力」がますます高評価を得て、支持率が上昇。

一方で、変化を読み取ったインバウンド市場においても、個人旅行者を中心にリピート客が増加。3Q累計期間におけるDQ既存店は5.0%増。MEGA運営の長崎屋は4.8%増といずれも好調。

▶ 当3Q末店舗数：322店（前期末306店）

居抜き物件を活用した積極的な店舗拡大策を推進。新規出店21店（DQ5店、New MEGA8店、MEGA2店、驚安堂2店、ピカソ3店、ドイト1店）の一方で、休業または閉鎖5店（改築1店、業態転換1店、完全閉鎖3店）

▶ 連結売上総利益：1,521億円（前期比10.6%増）、同率：26.7%（同0.3pt低下）

潮目が変わった消費環境下における販売商品のけん引役は、食料品や日用消耗品など、低粗利の生活必需品が中心。固定客はもとより、新規に獲得するファミリー層のニーズやウォンツにお応えし続けたことから、リピート客数は堅調に推移するものの、総利益率は0.3pt低下。さらにメタボ在庫の処分も継続して実施中。

▶ 連結販管費：1,172億円（同12.9%増）、同率：20.6%（同0.2pt低下）

セールスマックスの変化及びインバウンド消費拡大に伴う作業工数増加並びに積極的な新規出店に対応するため、人員体制を強化し、MD組織も変更。一方で、体制強化は増収効果に繋がっており、予算通りに着地した販管費を吸収。

▶ 営業外収支戻：3.1億円のプラス

受取利息5.1億円、違約金収入8.2億円/支払利息7.7億円、債権流動化費用4.6億円など。

▶ 特別損益戻：9.7億円のマイナス

固定資産売却益1.2億円/固定資産除却損1.0億円、店舗撤退損失9.8億円など。

▶ これらのことから、営業利益349億円（同3.7%増）、経常利益352億円（同1.3%増）、親会社に帰属する当期純利益197億円（同1.7%減）。

3Q累計連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2015年7月1日～2016年3月31日】

(単位：百万円)

| | 当3Q (累計) | | 前3Q (累計) | | 前期比 |
|----------|----------|--------|------------|--------|--------|
| | 金額 | 百分比 | 金額 | 百分比 | |
| 売上高 | 569,547 | 100.0% | 509,920 | 100.0% | 111.7% |
| 売上総利益 | 152,134 | 26.7% | 137,531 | 27.0% | 110.6% |
| 販管費 | 117,197 | 20.6% | 103,844 | 20.4% | 112.9% |
| 給与手当 | 44,056 | 7.7% | 37,170 | 7.3% | 118.5% |
| 地代家賃 | 15,415 | 2.7% | 14,044 | 2.8% | 109.8% |
| 支払手数料 | 13,350 | 2.3% | 11,722 | 2.3% | 113.9% |
| 減価償却費 | 9,560 | 1.7% | 8,415 | 1.6% | 113.6% |
| その他 | 34,815 | 6.2% | 32,493 | 6.4% | 107.1% |
| 営業利益 | 34,937 | 6.1% | 33,687 | 6.6% | 103.7% |
| 経常利益 | 35,249 | 6.2% | 34,802 | 6.8% | 101.3% |
| 当期純利益 | 19,732 | 3.5% | 20,083 | 3.9% | 98.3% |
| 1株当たり純利益 | 124.83円 | | ※1 127.74円 | | 97.7% |

※1. 2015年7月1日付で実施した株式分割(1:2)が期首に行われたと仮定して算定しております。

3Q累計事業別業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶リテール事業5,499億円（前期比11.8%増）

天候不順や暖冬による衣料品などの冬物商品、国内顧客のギフト需要縮小による輸入ブランド品などの高単価商品が苦戦。一方で、消費者の価格感応度が高まっていることを示すように、食品や日用消耗品などの生活必需品のシェアが急拡大。消費トレンドはハロウィンやお花見など「グループで楽しむイベント」へ変化しており、関連商品のニーズを新規に獲得。

*「家電製品」467億円（同6.9%増）

POSAカードが力強い牽引役となる。ヘッドフォンなどの「AV小物」や、冷蔵庫や洗濯機などの大型「生活家電」が伸長し、シェーバーやヘアアイロンなどの「理美容家電」が貢献。

*「日用雑貨品」1,167億円（同15.6%増）

インバウンド消費の貢献度が加速的に高まり、フェイシャルパックなどの化粧品や医薬品がそれぞれ約30%増。シャンプーなどの「日用消耗品」は自然由来など高付加価値をキーワードとした中価格帯商品の人気拡大。

*「食品」1,793億円（同16.7%増）

卵や牛乳などの「日配品」は価格優位性が支持されて、成長率高まる。「菓子類」は国内の日常消費ニーズと、インバウンドのお土産ニーズの両方を驚掴み。ドリンク類、加工食品、保存性食品、米類、調味料なども高い伸びを記録。MEGA店は輸入牛を中心とした精肉、焼き芋などの青果及び店内調理の惣菜が支持を集める。

*「時計・ファッション用品」1,162億円（同5.0%増）

国内の高額系商品に対する需要は軟調の一方で、インバウンド需要が下支え。暖冬が冬物衣料の販売にマイナス影響を及ぼしたが、キャリーケースやリュックなどのカバン類及びシューズ類など、季節を問わない商品が好調なトレンドを描く。

*「スポーツ・レジャー用品」401億円（同12.3%増）

コスチュームなどの季節イベント関連用品が急伸。根強い人気を博している腹筋マシンなどのエクササイズ器具の貢献度高まる。

*「DIY用品」118億円（同9.6%減）

天候不順や記録的な暖冬を主要因として、園芸用品やエクステリア用品が不振となった反面、雨具やワークウェアなどが伸長。リフォームやお掃除などの「御用聞き」が除々に成果を上げる。

*「海外」307億円（同16.5%増）

店内調理で提供する寿司や惣菜などの「モバイルフーズ」や日配品及び精肉などの生鮮食品が高成長を記録。菓子パンなどベーカリー部門の成長率高まる。

（ご参考：当3Q 1USD=121.6円、前3Q 1USD=107.8円）

▶テナント賃貸事業147億円（同8.3%増）

積極的な新規出店が、商業施設事業及びJAM事業の収益拡大に寄与。

3Q累計事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2015年7月1日～2016年3月31日】

(単位：百万円)

| | 当3Q (累計) | | 前3Q (累計) | | 前期比 |
|-------------|----------|--------|----------|--------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| リテール事業 | 549,928 | 96.6% | 491,943 | 96.5% | 111.8% |
| 家電製品 | 46,663 | 8.2% | 43,668 | 8.6% | 106.9% |
| 日用雑貨品 | 116,729 | 20.5% | 100,941 | 19.8% | 115.6% |
| 食品 | 179,251 | 31.5% | 153,636 | 30.1% | 116.7% |
| 時計・ファッション用品 | 116,207 | 20.4% | 110,674 | 21.7% | 105.0% |
| スポーツ・レジャー用品 | 40,087 | 7.0% | 35,708 | 7.0% | 112.3% |
| DIY用品 | 11,796 | 2.1% | 13,045 | 2.6% | 90.4% |
| 海外 | 30,667 | 5.4% | 26,329 | 5.1% | 116.5% |
| その他商品 | 8,528 | 1.5% | 7,942 | 1.6% | 107.4% |
| テナント賃貸事業 | 14,690 | 2.6% | 13,568 | 2.7% | 108.3% |
| その他事業 | 4,929 | 0.8% | 4,409 | 0.8% | 111.8% |
| 合計 | 569,547 | 100.0% | 509,920 | 100.0% | 111.7% |

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 「季節性イベント関連商品」を中心に当期から部門変更をしております。なお、前3Q実績については、変更後の区分方法により作成しております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

| | 16年3月 | 15年6月 | 増減額 |
|-------------|---------|---------|--------|
| 流動資産 | 203,730 | 175,981 | 27,749 |
| 現預金 | 61,703 | 49,717 | 11,986 |
| 商品 | 109,214 | 94,580 | 14,634 |
| 固定資産 | 357,276 | 329,685 | 27,591 |
| 建物等 | 105,047 | 96,021 | 9,026 |
| 土地 | 162,458 | 150,647 | 11,811 |
| 敷金保証金 | 33,512 | 32,817 | 695 |
| 資産合計 | 561,006 | 505,666 | 55,340 |

主な資産の状況

- ▶ **総資産：5,610億円**（前期末比553億円増）
 主な増加要因は、現預金120億円増、受取手形及び売掛金11億円増、棚卸資産146億円増、出店に伴う有形固定資産232億円増及び投資その他の資産45億円増など。
- ▶ **現預金：617億円**（同120億円増）
 積極的な店舗拡大策に伴う資金需要に対して、銀行からの長期資金借入れに加えて、普通社債200億円を発行するなど、デット調達を実施。
- ▶ **商品：1,092億円**（同146億円増）
 過去最高数に拡大する新規出店及び好調な販売推移を続ける既存店の販売機会ロス抑制のため146億円増。
- ▶ **固定資産：3,573億円**（同276億円増）
 当初予想を大幅に上回る年間39店の新規出店及び次期以降の出店物件の獲得により、建物・土地などの有形固定資産232億円増、投資その他の資産45億円増。

主な負債・純資産の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

| | 16年3月 | 15年6月 | 増減額 |
|--------------------|---------|---------|--------|
| 流動負債 | 149,608 | 144,576 | 5,032 |
| 買掛金 | 69,824 | 60,556 | 9,268 |
| 短期負債 ^{※1} | 35,925 | 38,598 | ▲2,673 |
| 固定負債 | 170,991 | 139,723 | 31,268 |
| 社債 | 77,271 | 62,690 | 14,581 |
| 長期借入金 | 46,036 | 25,156 | 20,880 |
| 債権流動化に伴う 長期支払債務 | 28,673 | 34,023 | ▲5,350 |
| 負債合計 | 320,599 | 284,299 | 36,300 |
| 純資産合計 | 240,407 | 221,367 | 19,040 |
| 負債・純資産合計 | 561,006 | 505,666 | 55,340 |

主な負債・純資産の状況

- ▶ **負債合計：3,206億円** (同363億円増)
 主な増減要因は、買掛金93億円増、有利子負債328億円増(短期性負債27億円減、長期性負債355億円増)の一方で、債権流動化に伴う支払債務53億円減など。
- ▶ **有利子負債：1,592億円**
 (同328億円増、依存率28.4%、うちACR38億円、JAM144億円)
 調達資金の長期安定化を進める。
- ▶ **純負債：975億円** (同208億円増)
- ▶ **債権流動化に伴う支払債務：358億円**
 (同53億円減)
 ABL (Asset backed loan) により調達。
- ▶ **D/Eレシオ：0.66倍**
- ▶ **インタレスト・カバレッジ・レシオ：46.0倍**
- ▶ **純資産：2,404億円**
 (前期末比190億円増、自己資本比率40.7%)

※1. 短期負債 = 短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

3Q累計セグメント情報（事業別）

ドン・キホーテ HLDGS

セグメント利益は、「リテール事業」197億円、
「テナント賃貸事業」106億円、「その他の事業」49億円！！

当3Q累計 セグメント概要【期間：2015年7月1日～2016年3月31日】※1

（単位：百万円）

| | リテール事業 | テナント賃貸事業 | その他事業※2 | 計 | 調整 | 連結 |
|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 外部売上高 | 549,928 | 14,691 | 4,928 | 569,547 | — | 569,547 |
| 内部取引等 | 11 | 13,322 | 5,947 | 19,280 | ▲19,280 | — |
| 計 | 549,939 | 28,013 | 10,875 | 588,827 | ▲19,280 | 569,547 |
| セグメント利益 | 19,673 | 10,638 | 4,870 | 35,181 | ▲244 | 34,937 |

前3Q累計 セグメント概要【期間：2014年7月1日～2015年3月31日】※1

（単位：百万円）

| | リテール事業 | テナント賃貸事業 | その他事業※2 | 計 | 調整 | 連結 |
|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 外部売上高 | 491,943 | 13,568 | 4,409 | 509,920 | — | 509,920 |
| 内部取引等 | — | 11,573 | 4,567 | 16,140 | ▲16,140 | — |
| 計 | 491,943 | 25,141 | 8,976 | 526,060 | ▲16,140 | 509,920 |
| セグメント利益 | 20,605 | 9,393 | 3,947 | 33,945 | ▲258 | 33,687 |

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. その他事業は「不動産事業」「マーケティング事業」「金融サービス事業」等であります。

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

| 1.キャッシュフローの状況 | 当3Q | 前3Q | 増減額 | キャッシュフロー <営業CF> ▶税金等調整前純利益343億円、減価償却費109億円及び仕入債務の増加93億円などが増加要因となる一方で、棚卸資産の増加146億円及び税金支払額167億円などが減少要因となったことから、252億円がキャッシュイン <投資CF> ▶出店に伴う有形固定資産の取得310億円、敷金保証金の差入れ12億円及び出店仮勘定の差入れ26億円などにより、358億円がキャッシュアウト <財務CF> ▶長期借入金の純増219億円及び社債の純増83億円が増加要因となる一方で、債権流動化の返済57億円及び配当金支払32億円などが減少要因となったことから、235億円がキャッシュイン |
|---------------|---------|---------|--------|---|
| 期首残高 | 51,292 | 44,105 | 7,187 | |
| 営業活動CF | 25,156 | 24,434 | 722 | |
| 投資活動CF | ▲35,826 | ▲41,317 | 5,491 | |
| 財務活動CF | 23,498 | 22,501 | 997 | |
| 期中増減等 | 12,249 | 6,539 | 5,710 | |
| 期末残高 | 63,541 | 50,644 | 12,897 | |
| 営業活動CF+投資活動CF | ▲10,670 | ▲16,883 | 6,213 | |

2.設備投資の状況

| | | | |
|------------------------|--------|---------|--------|
| 設備投資額 | 34,949 | 41,007 | ▲6,058 |
| キャッシュフロー ^{※1} | 27,219 | 27,440 | ▲221 |
| 差引 | ▲7,730 | ▲13,567 | 5,837 |

| 設備投資 |
|--|
| ▶当期中の新規出店に加えて、次期以降の出店予定物件を獲得したことなどで、設備投資は349億円(DQ149億円、長崎屋18億円、ドイツ6億円、JAM131億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は331億円)。キャッシュフローは272億円獲得したが、積極的な投資活動によりフリーCFは▲77億円。 |

※1. キャッシュフロー = 純利益+減価償却費+特別損失-配当金

3Q連結損益業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2016年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

| | 当3Q | | 前3Q | | 前期比 |
|----------|---------|--------|-----------|--------|--------|
| | 金額 | 百分比 | 金額 | 百分比 | |
| 売上高 | 185,102 | 100.0% | 167,696 | 100.0% | 110.4% |
| 売上総利益 | 49,192 | 26.6% | 45,897 | 27.3% | 107.2% |
| 販管費 | 39,826 | 21.5% | 35,621 | 21.2% | 111.8% |
| 給与手当 | 15,136 | 8.2% | 12,839 | 7.7% | 117.9% |
| 地代家賃 | 5,178 | 2.8% | 4,874 | 2.9% | 106.2% |
| 支払手数料 | 4,535 | 2.5% | 3,931 | 2.3% | 115.4% |
| 減価償却費 | 3,411 | 1.8% | 3,045 | 1.8% | 112.0% |
| その他 | 11,566 | 6.2% | 10,932 | 6.5% | 105.8% |
| 営業利益 | 9,366 | 5.1% | 10,276 | 6.1% | 91.1% |
| 経常利益 | 9,376 | 5.1% | 10,758 | 6.4% | 87.2% |
| 当期純利益 | 5,499 | 3.0% | 6,389 | 3.8% | 86.1% |
| 1株当たり純利益 | 34.78円 | | ※1 40.53円 | | 85.8% |

※1. 2015年7月1日付で実施した株式分割（1：2）が期首に行われたと仮定して算定しております。

3Q連結事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2016年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

| | 当3Q | | 前3Q | | 前期比 |
|-------------|---------|--------|---------|--------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| リテール事業 | 178,519 | 96.4% | 161,582 | 96.4% | 110.5% |
| 家電製品 | 15,449 | 8.4% | 14,412 | 8.6% | 107.2% |
| 日用雑貨品 | 38,395 | 20.7% | 33,124 | 19.8% | 115.9% |
| 食品 | 60,800 | 32.9% | 52,033 | 31.0% | 116.8% |
| 時計・ファッション用品 | 35,917 | 19.4% | 34,908 | 20.8% | 102.9% |
| スポーツ・レジャー用品 | 10,188 | 5.5% | 9,963 | 5.9% | 102.3% |
| DIY用品 | 3,961 | 2.1% | 4,327 | 2.6% | 91.5% |
| 海外 | 11,167 | 6.0% | 10,216 | 6.1% | 109.3% |
| その他商品 | 2,642 | 1.4% | 2,599 | 1.6% | 101.6% |
| テナント賃貸事業 | 4,953 | 2.7% | 4,596 | 2.7% | 107.8% |
| その他事業 | 1,630 | 0.9% | 1,518 | 0.9% | 107.4% |
| 合計 | 185,102 | 100.0% | 167,696 | 100.0% | 110.4% |

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 「季節性イベント関連商品」に係る商品を中心に当2Qから部門変更しております。なお、前3Q実績については、変更後の区分方法により作成しております。

3Q決算サマリー

降雪などの悪天候や気温の乱高下が、季節商品の販売にマイナス影響を及ぼす一方で、「生活必需品需要」と「インバウンド消費」が支持基盤を拡大！
当3Qは前期比増収減益も、予想比は売上高5%増、営業利益29%増と上振れ！

<ようやく動いた季節商品 1月>

既存店売上高：5.9%増 客数：2.0%増 客単価：3.9%増

- 初売り日数1日減も上旬でカバー
- 月後半の低気温が冬物需要を喚起
- ますます需要が高まる生活必需品

<賑わうインバウンド消費 2月>

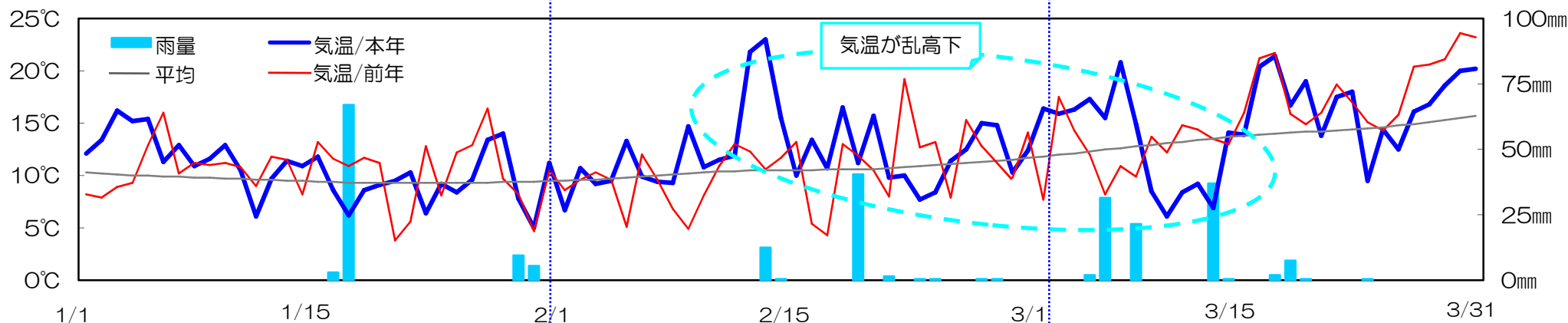
既存店売上高：5.8%増 客数：2.6%増 客単価：3.1%増

- 繰り返された暖冬と週末の悪天候
- 全店免税売上高構成比7%に到達
- うるう年効果で高ハードル上回る

<悪天候のちの花見で猛追 3月>

既存店売上高：1.9%増 客数：0.8%減 客単価：2.8%増

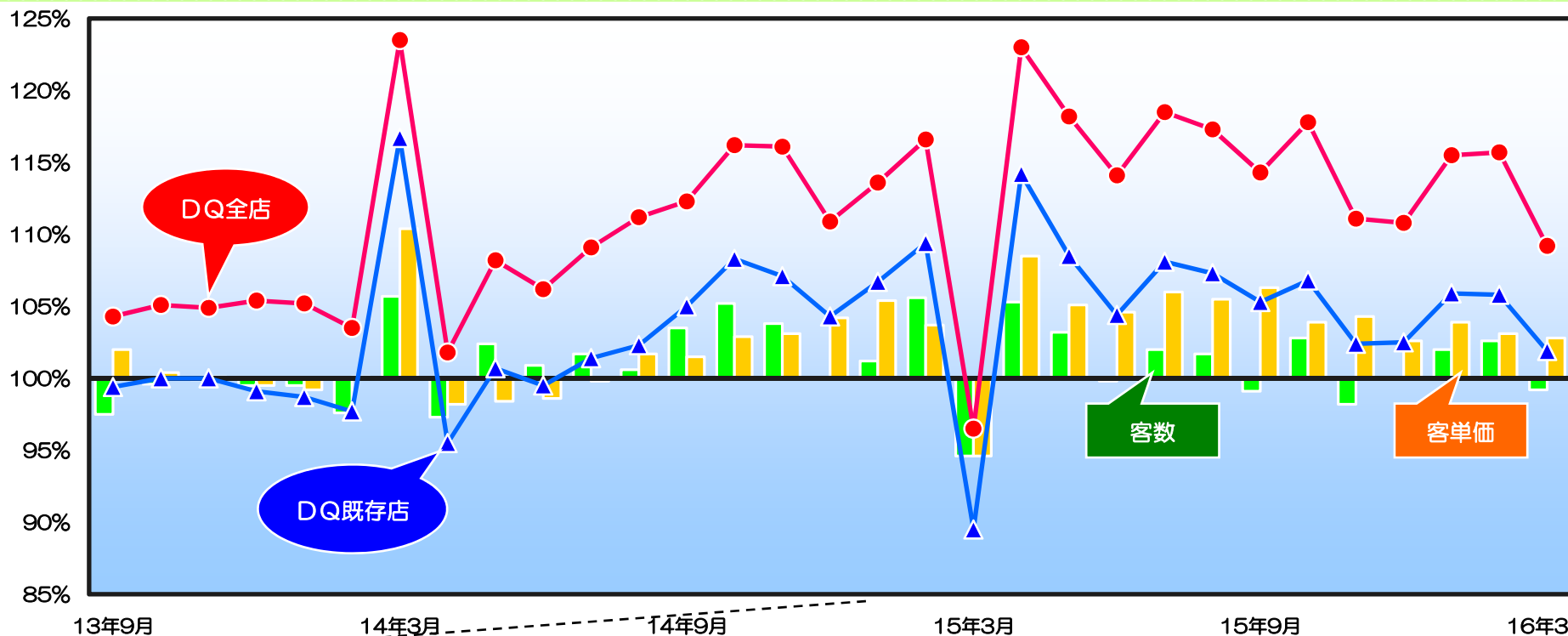
- 目まぐるしく変化した天候と気温
- 商況の日替わり変化に柔軟に対応
- お花見消費と新生活需要で春来る



<主な出来事>

| 今年 | ＜出店数＞ 0 | ✓TPP署名（2月4日） ✓長期金利が史上初のマイナスに（2月9日） ✓春節・旧正月休暇（中国：2月7日～13日） | ＜出店数＞ 1 | ✓桜の開花日/東京（3月21日） ✓北海道新幹線 開業（3月26日） ✓単月訪日入国者数が初めて200万人突破 | ＜出店数＞ 5 |
|----|------------|---|------------|---|------------|
| 昨年 | ＜出店数＞ 0 | ✓台風1号発生。 観測史上最速ペースでの台風発生 | ＜出店数＞ 3 | ✓春節・旧正月休暇（中国：2月18日～24日） | ＜出店数＞ 4 |

月次販売高の状況 (DQ)



| 既存店 | 15年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 16年1月 | 2月 | 3月 |
|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | 106.7% | 109.4% | 89.5% | 114.2% | 108.5% | 104.4% | 108.1% | 107.3% | 105.3% | 106.8% | 102.4% | 102.5% | 105.9% | 105.8% | 101.9% |
| ・客数 | 101.2% | 105.6% | 94.6% | 105.3% | 103.2% | 99.8% | 102.0% | 101.7% | 99.1% | 102.8% | 98.2% | 100.0% | 102.0% | 102.6% | 99.2% |
| ・客単価 | 105.4% | 103.7% | 94.6% | 108.5% | 105.1% | 104.6% | 106.0% | 105.5% | 106.3% | 103.9% | 104.3% | 102.6% | 103.9% | 103.1% | 102.8% |
| 対象店舗数 | 203店 | 204店 | 205店 | 205店 | 207店 | 208店 | 207店 | 209店 | 212店 | 214店 | 216店 | 218店 | 221店 | 220店 | 222店 |
| 土日休日数 | +1日 | ±0日 | -2日 | ±0日 | +2日 | -1日 | ±0日 | ±0日 | +1日 | +1日 | -1日 | ±0日 | +1日 | +1日 | ±0日 |

2015年8月後半以降、明らかに潮目が変わった消費マインドに対して、
無私で真正直な商売を愚直に実施し続けて顧客支持を拡大。
3Q累計期間の既存店は5.0%増（客数0.8%増、客単価4.2%増）。

当期出店状況

フォーマット別店舗数

| | 2014年 6月期 | 2015年 6月期 | 2016年6月期 | | |
|-------------|--------------|--------------|----------|-----|-----|
| | | | 1Q | 2Q | 3Q |
| ドン・キホーテ | *1 174 | 183 | 182 | 184 | 184 |
| ピカソ | *2 15 | 18 | 20 | 21 | 21 |
| M E G A | *3 37 | 36 | 36 | 37 | 38 |
| New M E G A | 28 | 41 | 45 | 48 | 50 |
| 海外(アメリカ) | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| ドイト | 12 | 12 | 12 | 13 | 13 |
| 長崎屋 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 |

法人別店舗数

| | | | | | |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| ドン・キホーテ | 217 | 242 | 245 | 250 | 253 |
| 長崎屋 | 40 | 38 | 38 | 39 | 39 |
| ドイト | 12 | 12 | 12 | 13 | 13 |
| ライラック | - | - | 2 | 3 | 3 |
| 国内合計 | 269 | 292 | 297 | 305 | 308 |
| D Q U S A | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| M A R U K A I | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 |
| 海外合計 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| 合計 | 283 | 306 | 311 | 319 | 322 |

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パワ」が含まれております。
- ※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」「驚安堂」及び「エキドンキ」が含まれております。
- ※3. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※4. 賃貸期間の終了及び事業の見直しのため3店を閉鎖しております。
- ※5. 上記の他に、業態転換のため1店及び改築工事のため2店が休業しております。
- ※6. *は、ソリューション出店であります。

2月 MEGAドン・キホーテ 立川店



3月 ピカソ 南行徳駅前店



3月 MEGAドン・キホーテ 横浜青葉台店



3月 ドン・キホーテ * 岡山駅前店



3月 ドン・キホーテ 磐田店



当期ハイライト

居抜き出店を加速し、店舗ネットワークを全国に展開中。
当3Q累計期間の新規出店数はDQ・MEGAを中心に21店。通期は39店まで拡大。

| | | 1 Q | | | 2 Q | | | 3 Q | | | 4 Q | | |
|-------------------|--------------|----------------------------|--|----------------|--------------|------------------|-------------------------|-----|---|---|--|---------------|----|
| | | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| DQ | DQ | | | 新宿明治通り (東京) | | | 八千代(千葉) 静岡山崎 (静岡) | | | 岡山駅前* (岡山) 磐田(静岡) | 伊勢(三重) 天理(奈良) 藤枝(静岡) 大曲(秋田)* センター北 駅前(神奈川)* | 金沢森本 (石川) | |
| | MEGA | 箕面(大阪)✓ 和歌山次郎丸 (和歌山) | | 桜井(奈良) | | 神栖(茨城) 出雲(島根) | | | 立川(東京) 横浜青葉台 (神奈川) 筑紫野インター (福岡) | 板橋志村✓ (東京) 大村インター (長崎) 大津(滋賀) 千種香流 (愛知) | | | |
| | ピカソ エキドンキ | 横須賀中央 (神奈川) | | | エキマルシェ 大阪 | | | | | 南行徳駅前 (千葉) | | | |
| | 業態 転換 | 名古屋本店 (愛知) | | | | | | | | | | | |
| 長崎屋 | | | | | | 綾瀬(神奈川) | | | | | ダイシン 百貨店 | 大森(東京) | |
| ライラック | | | 福生(東京) | | | 松伏(埼玉) | | | | | | | |
| ドイト | | | | | | 新宿下落合 (東京) | | | | | | 日ノ出町 (神奈川) | |
| MARUKAI (業態転換) | | | Tokyo Central Pacific Tokyo Central San Diego | | | | | | | | | | |

- 新経営体制
始動
- インバウンド向け
「熱中症予防キャン
ペーン」実施
- 「驚安堂」
新モデル店
オープン
- majica会員数
300万人
突破
- エキナカ
初出店
(大阪駅)
- グループ国内
300店突破
- 島根県
初出店
- GMS再生
モデル店
オープン
- PB
「情熱価格」
リニューアル
- 無担保社債
200億円
発行
- majica会員数
350万人
突破
- 月間最高の
9店オープン
- ダイシン百貨店が
「MEGA」として
リニューアル
オープン

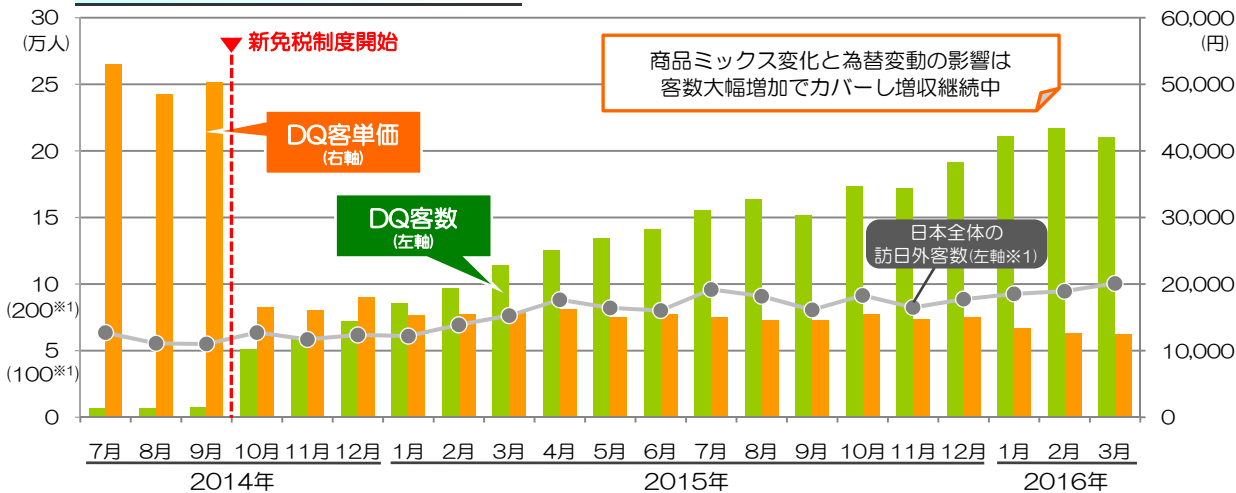
■ = DQ ■ = MEGA □ = ドイト ■ = ピカソ
エキドンキ ■ = 驚安堂 □ = 業態転換 * = ソリューション出店
✓ = (スクラップ) & ビルド店

インバウンド：トレンド

インバウンドを取り巻く環境とDQの取り組み



◆ 免税客単価と客数の推移



◆ 免税売上高構成比 上位10店

| 順位 | 店舗名 | 免税構成比 |
|----|--------------|-------|
| 1 | 道頓堀御堂筋店 (大阪) | 56.8% |
| 2 | 道頓堀店 (大阪) | 52.4% |
| 3 | 国際通り店 (沖縄) | 44.8% |
| 4 | 銀座本館 (東京) | 41.6% |
| 5 | 中洲店 (福岡) | 36.6% |
| 6 | 新宿東口店 (東京) | 31.8% |
| 7 | 札幌店 (北海道) | 29.6% |
| 8 | 梅田本店 (大阪) | 26.7% |
| 9 | 名古屋栄店 (愛知) | 25.4% |
| 10 | 上野店 (東京) | 22.9% |
| 全店 | | 5.9% |

対象データ：(株)ドン・キホーテ (2015年7月1日~2016年3月31日)

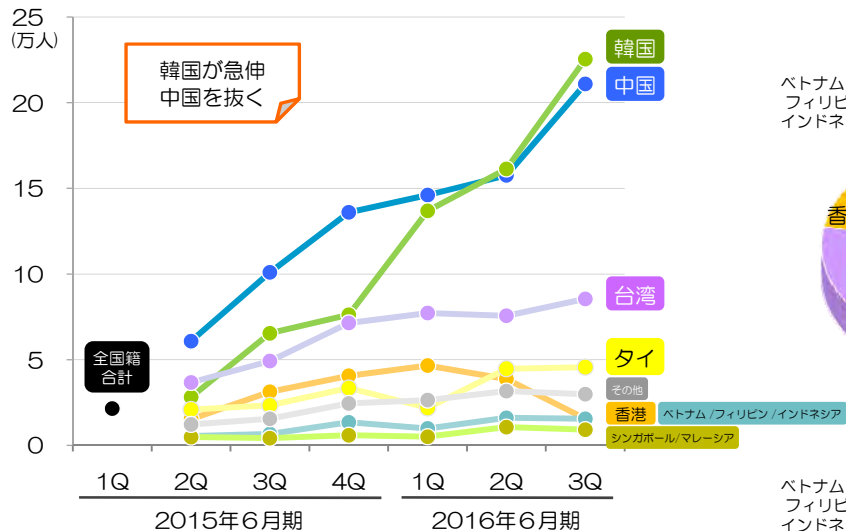
インバウンド：インターナショナル

ドン・キホーテ HLDGS

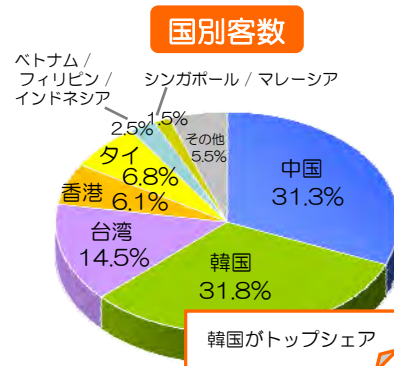
DQデータ

対象データ：(株)ドン・キホーテ
(2015年7月1日～2016年3月31日)

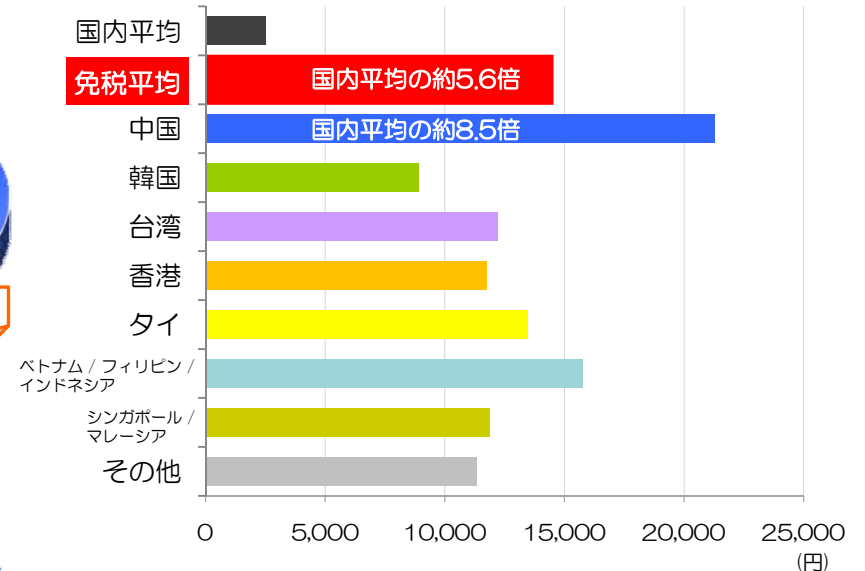
◆ 訪日外国人客数の推移



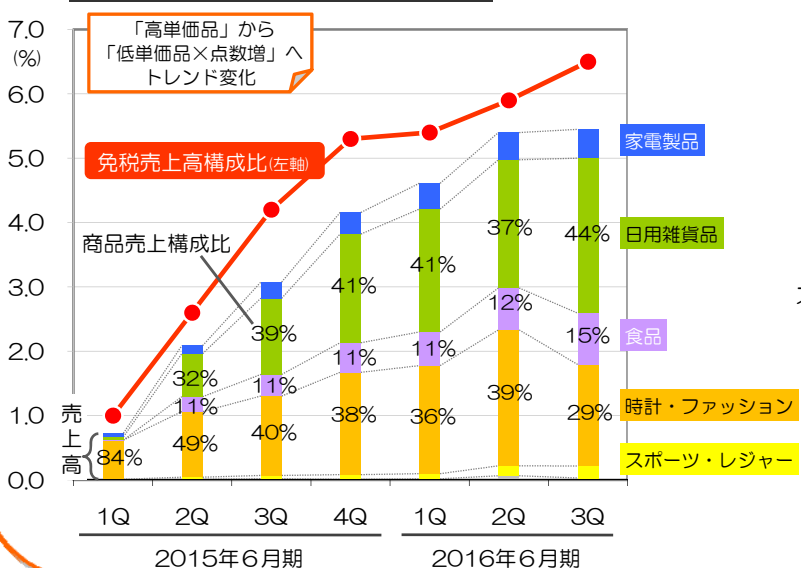
◆ 免税構成比



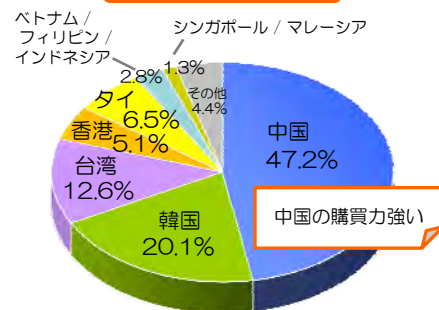
◆ 免税客単価



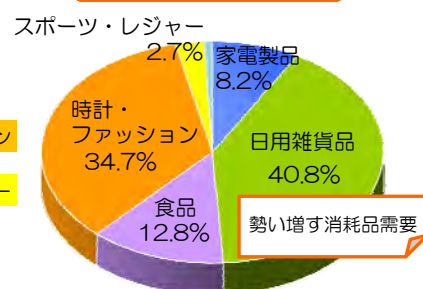
◆ 商品別免税売上高の推移



◆ 国別免税売上高



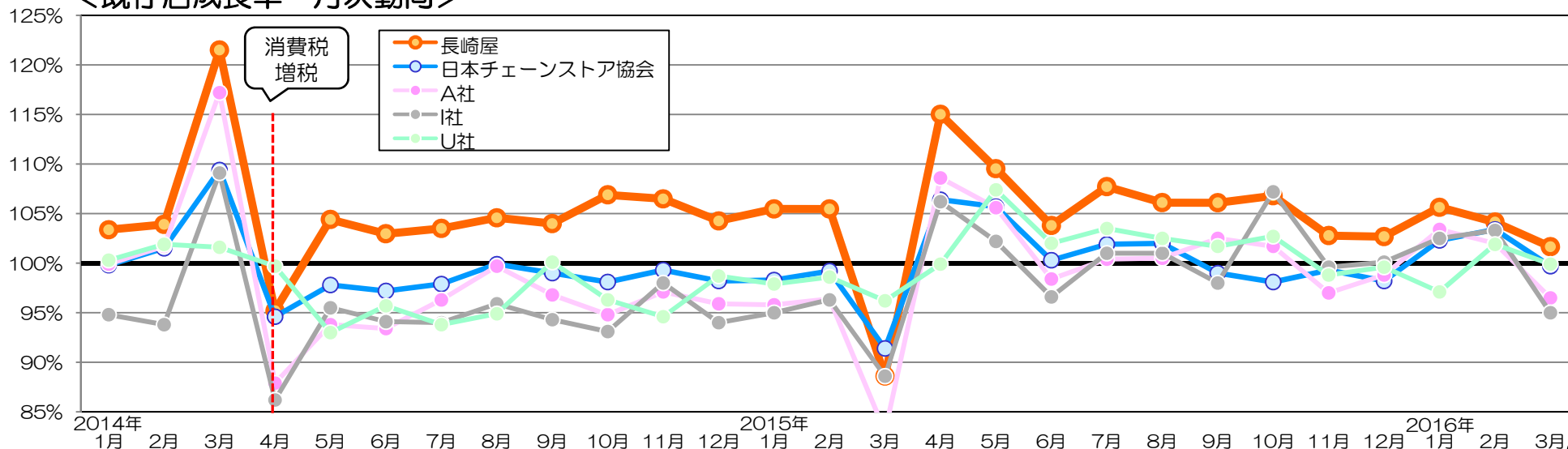
◆ 商品別免税売上高



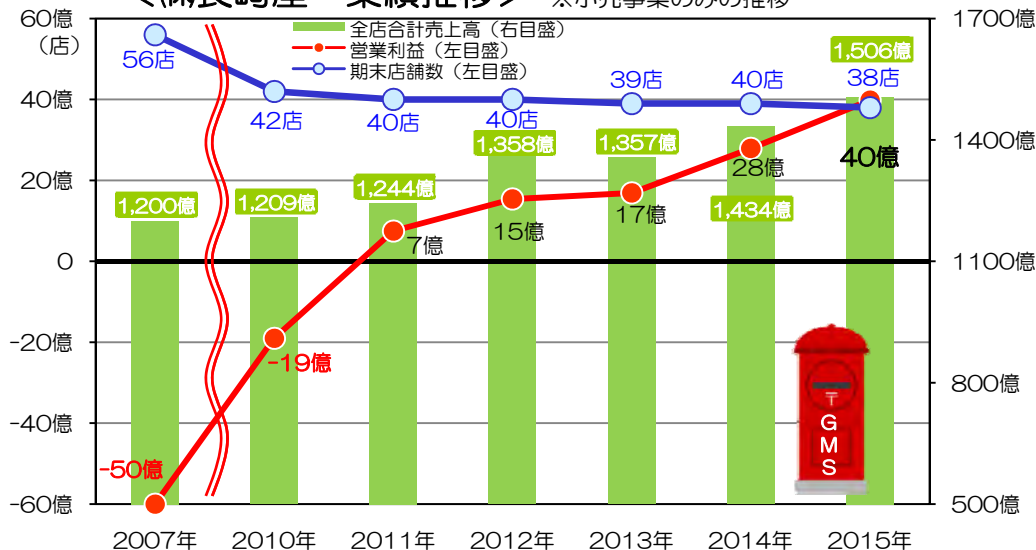
中国でのSNSプロモーション強化とリサーチ活用



＜既存店成長率 月次動向＞



＜株長崎屋 業績推移＞ ※小売事業のみの推移



長崎屋の軌跡

- 1947年 (株)長崎屋蒲団店を設立
 - 1992年 最盛期を迎える (売上高：4,374億円 店舗数：110店)
 - 2000年 会社更生法を申請
 - 2006年 会社更生手続きが終結
 - 2007年 ドン・キホーテグループ傘下に参入
 - 2008年 MEGAドン・キホーテ1号店開店。業態転換による改革始まる
 - 2009年 小売事業とテナント賃貸事業を切り離す (小売事業の赤字をテナント賃貸事業で埋め合わせる態勢に決別)
 - 2011年 構造改革を進め、営業利益V字回復
 - 2013年 9年ぶりの新店を札幌市の大手GMS跡地に開店
 - 2015年 神奈川県綾瀬市に新店。ポストGMS業態に果敢に挑戦
- 買収時と直近期 (2015年) を比較すると・・・
全社売上高1.3倍、1店当たり売上高1.8倍、営業利益90億円改善

老舗百貨店再生物語 Episode 1

ドン・キホーテ HLDGS

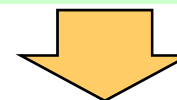
大田区を中心とした地域の皆さまにご愛顧いただいた「ダイシン百貨店」は、52年の営業に幕を閉じ、6月下旬に「MEGAドン・キホーテ」に生まれ変わります。抜本的な改革を実行することで、ダイシンの再生を目指します！

ダイシンのあゆみ

- 1945年 特攻隊帰りの創業者 竹内義年氏が郷里の長野県から運んできたリンゴを大森で販売開始
- 1948年 株信濃屋として八百屋を法人化
- 1964年 「ダイシン百貨店」に商号変更
- 1992年 創業者が逝去、2代目竹内洋一氏が後継
- 1990年代 企業拡大を図り、7店舗・売上高250億円、従業員800人超に到達
- 2004年 竹内洋一氏が逝去（死後粉飾決算が発覚）
- 2005年 本店以外の6店を売却
- 2006年 建築家西山敷氏が創業家よりMBOを実施し、代表取締役就任
- 2010年 大森本店建替え工事開始
- 2012年 グランドオープン
- 2015年 ドン・キホーテと業務提携
- 2016年 「MEGAドン・キホーテ」としてリニューアルオープン

<ダイシン百貨店 概要>

- *高齢者に優しい百貨店
 - *地域密着型レトロ百貨店
 - *半径500mシェア100%主義
- 営業時間：午前9時30分～午後9時
所在地：東京都大田区山王3-6-3
交通：JR大森駅から徒歩10分
売場面積：11,067㎡
建物構造：鉄骨造5階
商品構成：食品、酒、日用消耗品
家庭雑貨、衣料品、他



<MEGAドン・キホーテ>

- 開店日：2016年6月下旬（予定）
営業時間：1F/午前8時～翌午前3時
2F・3F/午前8時～午後11時
フロア：1F・2F/MEGA
3F/テナント
商品構成：食品、酒、日用消耗品
家庭雑貨、衣料品、他



※外観イメージ図

中長期の重点戦略と当期の施策

ドン・キホーテ HLDGS

— ビジョン2020 —

1. 売上高 1兆円
2. 店舗数 500店
3. ROE 15.0%

— 2016年6月期施策 —

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. 営業方針：

- ・ 商圏内競争を勝ち上がり、収益力拡大とブランド力の底上げを図る
- ・ 素早く柔軟な体制強化のため、いっそう狭くて深い権限委譲を徹底
- ・ インバウンド消費の需要創造と獲得

2. 商品戦略：

- ・ 付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
- ・ 深くスピード感のあるMD立案と実行
- ・ 生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進

3. 店舗戦略：

- ・ 設備投資額440億円
- ・ 新規出店39店、DQ・MEGA店とも個店力を強化、小商圏店の実験促進
- ・ DQ既存店売上高予想：3Q累計＝＋5.0%、4Q＝±0.0%、通期＝＋3.7%

4. 人事戦略（雇用改定5ヵ年計画の推進）：

- ・ 多様性を認める企業文化を堅持
- ・ 多様な雇用形態の創出
- ・ ライフワークバランスの実現

5. 財務戦略：

- ・ 資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
- ・ デットによる資金調達を優先し、エクイティ調達は予定無し
- ・ 年間配当金予想＝20円00銭
（2Q末5円実施済、前期まで12期連続増配継続中！）

通期の連結業績予想

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)



| | 通期予想 | | | 前期実績 | | |
|----------|----------------------|--------|--------|-----------------------|--------|--------|
| | 金額 | 百分比 | 前期比 | 金額 | 百分比 | 前期比 |
| 売上高 | 750,000 | 100.0% | 109.7% | 683,981 | 100.0% | 111.7% |
| 売上総利益 | 200,000 | 26.7% | 110.0% | 181,741 | 26.6% | 112.9% |
| 販管費 | 159,000 | 21.2% | 111.5% | 142,638 | 20.9% | 112.6% |
| 営業利益 | 41,000 | 5.5% | 104.9% | 39,103 | 5.7% | 114.0% |
| 経常利益 | 41,500 | 5.5% | 103.3% | 40,160 | 5.9% | 113.2% |
| 当期純利益 | 23,400 | 3.1% | 101.1% | 23,148 | 3.4% | 107.8% |
| 1株当たり純利益 | 147.99円 | — | 100.6% | ^{※2} 147.09円 | — | 107.1% |
| 設備投資額 | ^{※1} 44,000 | — | 83.4% | 52,727 | — | 148.3% |
| 減価償却費 | ^{※1} 13,100 | 1.7% | 112.2% | 11,672 | 1.7% | 112.2% |

※1. 新規出店数の増加に伴って、前回予想（設備投資400億円、減価償却費128億円）より増額修正しております。

※2. 2015年7月1日付で実施した株式分割（1：2）が期首に行われたと仮定して算定しております。

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
ディスカウント体制の一層の強化を進めながら、
引き続き増収増益決算を目指します。

上場子会社決算業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

＜アクリーティブ：8423＞

(単位：百万円)

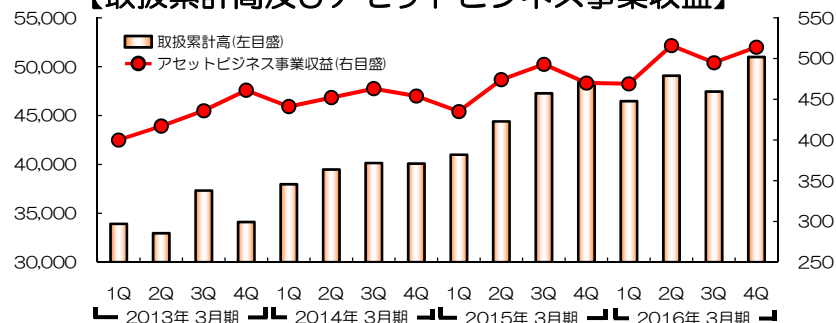
| 【PL概況】 | 2016年3月期 | | | 2015年3月期 | | |
|----------------|----------|--------|--------|----------|--------|-----|
| | 金額 | 百分比 | 前期比 | 金額 | 百分比 | 前期比 |
| 取扱累計高 | 194,016 | — | 107.1% | 181,118 | — | — |
| 営業収益 | 4,276 | 100.0% | 127.8% | 3,346 | 100.0% | — |
| アセット ビジネス事業 | 1,994 | 46.6% | 109.3% | 1,824 | 54.5% | — |
| ソリューション事業 | 1,284 | 30.0% | 109.6% | 1,171 | 35.0% | — |
| その他事業 | 998 | 23.3% | 284.4% | 351 | 10.5% | — |
| 金融費用 | 149 | 3.5% | 91.2% | 163 | 4.9% | — |
| 販売管理費 | 2,282 | 53.4% | 131.6% | 1,734 | 51.8% | — |
| 営業利益 | 1,845 | 43.2% | 127.4% | 1,448 | 43.3% | — |
| 経常利益 | 1,851 | 43.3% | 124.5% | 1,486 | 44.4% | — |
| 当期純利益 | 1,730 | 40.5% | 118.8% | 1,456 | 43.5% | — |

＜日本アセットマーケティング：8922＞

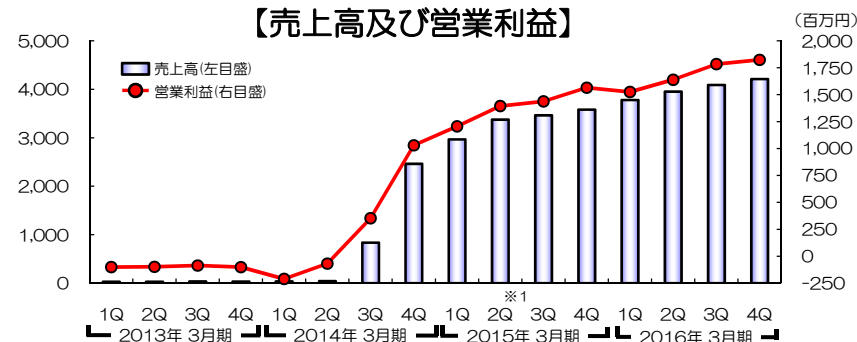
(単位：百万円)

| 【PL概況】 | 2016年3月期 | | | 2015年3月期 | | |
|--------|----------|--------|--------|----------|--------|-----|
| | 金額 | 百分比 | 前期比 | 金額 | 百分比 | 前期比 |
| 売上高 | 16,035 | 100.0% | 119.8% | 13,389 | 100.0% | — |
| 売上総利益 | 7,050 | 44.0% | 120.4% | 5,854 | 43.7% | — |
| 販売管理費 | 276 | 1.7% | 110.4% | 250 | 1.9% | — |
| 営業利益 | 6,773 | 42.2% | 120.9% | 5,604 | 41.9% | — |
| 経常利益 | 6,224 | 38.8% | 129.8% | 4,796 | 35.8% | — |
| 当期純利益 | 5,612 | 35.0% | 138.1% | 4,064 | 30.4% | — |

【取扱累計高及びアセットビジネス事業収益】



【売上高及び営業利益】



※1. 前2Qより非連結決算となっております。

| 【BS概況】 | 当4Q末 | | 前期末 |
|--------|--------|--------|--------|
| | 金額 | 増減 | 金額 |
| 総資産 | 21,460 | 566 | 20,895 |
| 負債 | 14,070 | ▲1,396 | 15,466 |
| 純資産 | 7,391 | 1,962 | 5,429 |

| 【BS概況】 | 当4Q末 | | 前期末 |
|--------|---------|--------|--------|
| | 金額 | 増減 | 金額 |
| 総資産 | 108,215 | 15,115 | 93,100 |
| 負債 | 94,744 | 9,503 | 85,241 |
| 純資産 | 13,471 | 5,613 | 7,858 |

本日はありがとうございました

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第36期（2016年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2016年8月17日（水）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS

